「小さい移動と人をデータでつなげる」杉並区産MaaS｜杉並区

2026/03/10

目的：移動利便性の向上と移動需要の喚起による地域活性化

- 路線バスやコミュニティバス等の既存交通とAIデマンド交通等の新規交通のシームレスな連携により、子育て世帯や高齢者等の様々な世代の利用者の移動利便性を向上させる。
- MaaSアプリ等から収集したデータや区民の移動実態アンケート等を分析し活用する基盤や方法を整える。これにより、データに基づいた効果的な交通再編及び施策検討を行うための長期的な体制や運用を構築する。
- 移動手段と移動目的をセットに案内することで、区民のおでかけや移動を増加させ、地域経済及びコミュニティの活性化と公共交通利用増加による持続可能な公共交通の実現を目指す。

事業内容：MaaSアプリ等によるデータ分析及び他分野連携

【交通サービスの高度化】
- MaaSアプリでAIオンデマンド交通を含んだ経路検索ができるようにしたほか、自転車駐車場及びグリーンスローモビリティの満空情報、コミュニティバス及び一部路線バスの位置情報、シェアサイクル事業者3社の予約連携の機能を追加し、移動の利便性を向上した。

【モビリティデータの取得と活用】
- MaaSアプリ等から収集した移動実績データや区民の移動実態アンケート等を可視化し分析することで、利用者のニーズに沿った施策を検討した。

【エンドコンテンツとの連携】
- イベントを通じたデジタルクーポンの配布等により、外出機会の創出と公共交通や商店街等の利用促進を実施した。

効果

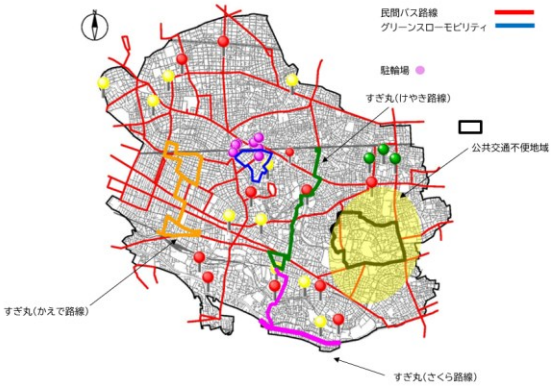
- 課題：利用者の移動利便性や公共交通の利用頻度を向上させ、交通ネットワークの持続可能性を向上させる必要がある。
- 効果：MaaSアプリの機能拡大による移動利便性の向上とデジタルクーポン等を通じた移動機会の創出、交通サービスの分析結果の開示や協議による持続的な交通ネットワーク実現のための交通事業者との協力関係を構築した。

【実施エリア】

［バス］
- すぎ丸(地域自主運行バス)
- グリーンスローモビリティ(地域自主運行バス)
- 京王電鉄バス
- 関東バス

［デマンド交通］
- AIオンデマンド交通(区営乗合タクシー)

［シェアリングサービス］
- OpenStreet(シェアサイクル)
- ドコモ・バイクシェア(シェアサイクル)
- Luup(シェアサイクル、電動キックボード)
- 荻窪の区営自転車駐車場8か所



【本事業の取組の全体像】



【デジタルクーポンの画面】



【デジタルクーポンを利用したイベントの様子】



MLIT Copyright © 2025 by MLIT. All rights reserved.

プロジェクトの効果

課題に対する効果

#	課題	効果
1	運転手不足の問題が深刻化する中、自転車や公共交通等による移動促進が求められており、複数の交通モードが連携した利用者の利便性向上が求められる。	MaaSアプリに既存交通の位置情報や新規交通を含んだ経路検索、自転車駐輪場の満空情報等の機能の追加により、利用者がリアルタイムで情報を可視化することができ、利便性が向上した。また、アンケート結果から自転車の利用が微増した。
2	AIオンデマンド交通導入をめぐって、バス事業者の理解を得ることが難しい中、利便性向上に向けた取組がなかなか進まない状況にあった。	地域公共交通活性化協議会等でMaaSアプリから収集した移動実績データ等の分析結果を公開し、議論の基盤を築いた結果、バス事業者からAIオンデマンド交通における停留所位置の助言が得られる等、関係性の構築が進んだ。
3	荻窪駅南側地域を運行するグリーンスローモビリティは、利用者数が想定を上回るとともに、観光施設である荻窪三庭園の利用状況も良好である。一方で、運行地域内の商店街には停車しないため利用者の消費行動につながらない状況である。	運行地域内の商店街を含めた地域でデジタルクーポンを使用したイベントを開催したことにより、商店街の利用を拡大させたほか、アプリ登録者の増加に寄与した。

KPI

【凡例】 赤字：目標達成　青字：目標未達成

#	測定項目	KPI	計測方法	計測頻度・回数	事業実施年度の目標値	最終結果	達成/未達成の原因
1	MaaSアプリ利用者の増加	ユーザ登録者数	データベースを確認	月1回	2,300人/年	2,275人/年	これまでは、MaaSアプリ利用時にユーザーの情報登録を必須としていたが、登録不要でも利用可能に変更したため。 なお、登録者数の伸びは鈍化するも利用者数は増加。
2	AIオンデマンド交通の利用者	利用者数	データベースを確認	月1回	40人/日	15.2人/日	運行区域内のスーパーや商店街等でプロモーションを実施したが、メインターゲットである子育て世帯には想定よりも認知が進まなかったため。
3	住民の移動増	1週間あたりの移動回数	アンケート	年2回	初回アンケートの平均値から10%増	3%増	イベント実施場所（グリーンスローモビリティ運行地域）が局所的であったため、区民全体の移動の増加にはつながらなかった。
4	住民の健康促進	自転車/徒歩の移動回数	アンケート	年2回	初回アンケートの平均値から10%増	4%増	MaaSアプリにシェアサイクルの予約連携機能、自転車駐輪場の満空情報を実装し、利便性を向上したが、MaaSアプリの認知が進まなかったため。

MLIT Copyright © 2025 by MLIT. All rights reserved.